

都市における環境の価値評価に関する研究

九州大学工学部 学生員 ○内野善文 正 員 松本亨
正 員 井村秀文 正 員 藤倉良

1. はじめに

社会資本整備による便益評価の方法には現在様々な方法が提案されている。しかし、環境財の評価手法については、環境（特に自然環境）は万人が有する財であるという観点からすると、そこから得られる便益を、貨幣価値という一元的な評価手段を用いた手法のみで正しく評価することは困難がともなう。しかしながら、社会資本整備を行う上で環境の価値評価が正しくなされていなければ、計画が本当に環境に配慮したものであるかどうかを正しく判断することはできないと考えられる。

そこで本調査では、地域的公共財としての博多湾を対象に、環境の持つ価値を評価することを目的とし、アンケート調査を行った。具体的には環境財（博多湾）に接する可能性のある人に対して、その利用状況や、その人の育成環境、環境意識等に関して調査した。

2. 調査の概要

調査概要を表1に示す。

回答者属性を見ると年齢別では30代、40代が3割ずつを占め、20代、50代、60代は約1割ずつとなっている。性別では男性が約6割を占める。この傾向は調査地域全域について同様であった。

表1 調査概要

調査地域	福岡市内およびその周辺地域
調査方法	調査票を各世帯の郵便受けに配布し、郵送により回収
調査期間	1月1日～10日
調査数	配布数 1,500件 回収数 324件（回収率 21.6%）
調査項目	博多湾に対する認識 海との関わり合い 博多湾の利用状況 博多湾の環境に対する意識

(1月9日現在)

3. 調査結果

1) 都市イメージと港湾の関係

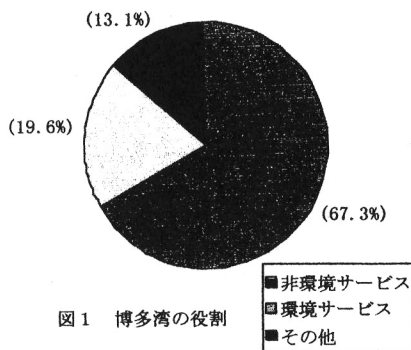
博多湾の持つ最も重要な役割は「物流基地」であると考えている人が約6割を占めている（図1）のに対し、環境サービスの提供と回答している人は2割弱にとどまった。これは、福岡のイメージとして半数以上の人が商業的なものを回答しており、福岡が九州の中心的商業地として発展してきたことを反映しているといえよう。

2) 居住環境と博多湾との関係

約8割の回答者が博多湾を目にする機会があると回答しているが、日常生活の中で博多湾の存在を身近に感じると回答した数は約6割ほど（図2）である。また、約8割の回答者にとって博多湾が住居地域の選択の直接の要因にはなり得ておらず、将来の選択では考えるとの回答が4割弱であるという結果が得られた。

3) 「海」と個人との関わり合い

「海」という言葉から連想するものとして、1人当たり約2つ（各回答者につき3つ選択）の環境サービス（砂浜、磯浜、公園施設等）を選択しており（図3）あり、また「海」から連想される行為において、海の状態が何らかの影響を与える行為（海水浴、



注) 本文における環境サービスとは、自然環境及び人工環境施設（公園等）の利用から得ることのできる恩恵を意味する。

釣り、マリンスポーツ)を連想した回答者が約9割を占めていた。回答者のおよそ7割が幼少期に海の使用を身近に認識しており、幼少期に海で遊んだ記憶があるという結果を得た。

4) 博多湾と個人との関わり合い

回答者のうち約半数が年に1回以上の利用となっており、週に数回の利用は1割強、月に1回～数回程度の利用は2割強であった。利用目的として、直接環境が影響を与えないと考えられるもの(景色を見る、食事、観光)がおおよそ3割で、直接環境が影響すると考えられる行為(海水浴、釣り、マリンスポーツ)は、回答の1割程度であった(図4)。

5) 博多湾に対する意識

現在の博多湾の環境が良いと思っている回答者は3割程度であった。また今後改善すべき問題点として、水質とゴミ問題を選択している回答数が1人当たり約1.2(各回答者につき2つ選択)と高かった。博多湾に対して環境サービス(マリゾン等の施設、能古島などの自然)を連想する回答は約6割を占め、その内の半数が自然環境を求めている。これまでの開発において博多湾の自然環境が保護されていると感じている回答者はおよそ2割であり、人工海岸と自然海岸の関係について、今後自然海岸の保全を優先すべきと考えている回答者が6割いるが、約35%の回答者は、博多湾の開発によって自然海岸が減少する事に対して、ある程度の妥協が必要であると感じている(図5)。

4. まとめ

博多湾は環境サービスを提供する場としてよりも物流拠点として認識されており、身近に「海」の存在を感じることでできる場所として重要であると考えている人が多い反面、身近に感じられない人もある程度(約35%)存在することが分かった。また、これまでの博多湾の開発については不満も多く、今後の開発については自然海岸線の保全を望む人が多いが、開発もやむをえないという意見もある。このように地元の経済に重要な役割を担う「海」と、その「海」という自然環境から恩恵を得ようとするこの意味、その代替性に視点を置き、環境の価値を考えていきたい。

今後は、回答者の博多湾との関わりと環境に対する意識について踏み込んだ分析を行う予定である。

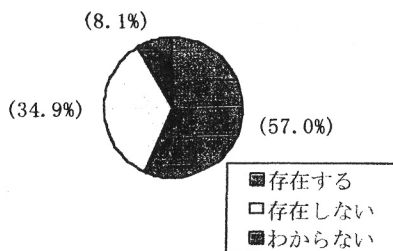


図2 博多湾が身近に感じられるか

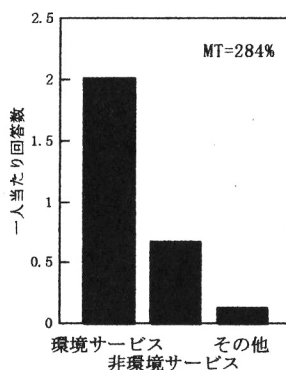


図3 海から連想するもの

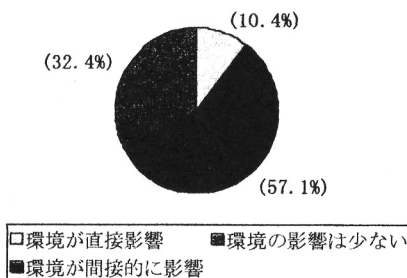


図4 博多湾の利用目的の分類

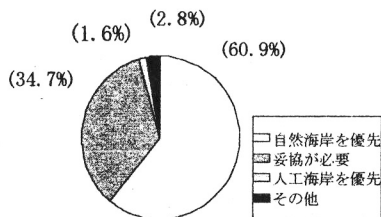


図5 人工海岸と自然海岸のあり方